

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、4事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和3年度の評価にあたっては、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（地域貢献及び国際交流）について「特筆すべき進捗状況にある」、5項目（教育、研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

福岡県立大学では、「学生ファースト」の理念に基づく内部質保証体制の下、専門的職業人としての能力の育成はもとより、社会の変化に対応できる汎用的な資質・能力を身に付けるための全学横断型教育プログラムの充実に取り組み成果を上げている。令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響が継続したが、対面授業と遠隔授業を的確に使い分け、また、eラーニングやオンラインによる国際交流を進めるなど、教育研究の維持向上に取り組んだ。不登校・ひきこもりサポートセンターの運営や看護師の特定行為研修の実施など地域貢献活動にも取り組んでいる。特に、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談支援や学生サポート活動、学習ボランティア派遣による学習支援に加え、新たに不登校児童生徒の社会的自立支援体制の構築に取り組むなどの顕著な成果をあげている点はきわめて優れていると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の令和3年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡県立大学は、これまでに地域と連携した取組で優れた成果をあげている。引き続き、地域貢献活動等の取組を一層推進するとともに、構築した内部質保証体制を機能させながら、教育研究の更なる充実に向けた取組を推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進

捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成
 - ・保健・医療・福祉の各分野の専門的知識を包括的に学ぶことができる「多職種連携プログラム」を立ち上げ、令和4年度からの実施に向けて科目の決定を行った。
 - ・授業の特質と感染症のまん延状況等に応じて、対面方式、遠隔方式を使い分けた授業の実施形態としたほか、教養演習テキストの改訂や習熟度別英語クラス編成の検討を行うなど、教養教育の充実を図っている。
 - ・人間社会学部の総合人間社会コースにおいて、全学横断型教育プログラムの履修要件を満たした学生に「学修証明書」を初めて交付した。
 - ・看護学部において、看護技術を強化するため、新たな科目の設置や、OSCE（客観的臨床能力試験）の実施、学生の自主活動である「看護技術極め隊」の活動支援に取り組んだ。また、ケアリング・アイランド大学コンソーシアムの構成大学と共同で、看護師国家資格に対応した学びを基盤としつつ、医療の高度化、細分化、国際化等の変化に対応するための新たなプログラムを創設した。
 - ・看護師、社会福祉士、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。
- (2) 高度専門職業人の人材育成
 - ・大学院生を対象とした満足度調査を実施し改善を図るとともに、社会人学生のニーズを考慮し、メディア授業科目の設置や実習先選択方法の見直しを行うなど、大学院教育の充実に取り組んでいる。
- (3) 教育活動の活性化
 - ・教員を対象としたeラーニングに関するセミナーや授業参観ウィークの実施等、ファカルティ・ディベロップメントを推進するとともに、学修成果を的確に把握するためのアセスメント・プランを実施するなど、教育活動の活性化に取り組んでいる。
- (4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保
 - ・コロナ禍において、オンラインによるオープンキャンパスや個別相談に加え、教職員と学生が協働して作成した大学の紹介動画を活用して入試広報活動を行ったほか、高大連携授業や出前講義により、意欲ある学生の確保に取り組んでいる。
 - ・看護学部において、令和4年度入試から、国公立大学で初めて全国児童養護施設推薦特別選抜を導入した。
- (5) 学生の学修支援と生活支援
 - ・図書館分館のラーニングコモンズを個別学習の場としてレイアウトを変更し、パソコンの更新を行うとともに、本館入館時の手荷物持込みを認める試行に取り組んだほか、大学院社会人学生との座談会を開催するなど、学生の学習環境の整備に努めている。

- ・成績不振の学生に対して教職員が連携して個別支援を行うとともに、障がいのある学生に対して修学上の支援計画を決定し対応するなど、学生の学修・生活支援体制の充実を図っている。

(6) キャリア支援

- ・コロナ禍において、プレ・インターンシップをオンラインと対面のハイブリッドで実施するとともに、受入先企業等にアンケートを行い、その結果を学生にフィードバックして今後の学びに関する目標を作成させるなど、キャリア支援の充実に取り組んでいるほか、就職率が高水準を維持している。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学術誌への論文掲載数が増加するとともに、科学研究費補助金等の応募件数、獲得件数ともに目標を上回っている。
- ・研究水準の向上を図るため、研究奨励交付金の配分を見直し、重点領域研究の範囲の拡大、科学研究費申請助成額の拡大を行った。

3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る福岡県の行政課題の解決にも資する取組、中期計画に掲げられた事項以外にも、地域に貢献する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師、社会福祉士等の資格・免許保持者等を対象に、専門分野を深めるためのリカレント教育や研修を実施している。また、新たに看護師の特定行為研修を開講し、7名の修了生を輩出した。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターの相談件数が4,300件を超えているほか、キャンパス・スクール事業における登校開始率が過去最高を更新した。さらに、新たに不登校児童生徒社会的自立支援事業を開始し、モデル校での不登校情報の分析支援や教育関係者によるネットワーク会議を行うとともに、令和4年度から開始予定の不登校対策に関わる人材育成研修のカリキュラムを作成するなど、不登校・ひきこもりへの支援を積極的に行っている。また、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」において、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣した延べ人数が1,100人を超えるなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援している。
- ・コロナ禍において、海外の交流協定締結校とオンラインによる交流イベントを実

施したほか、新たにオンラインプログラムに関する協定も締結するなど、国際交流の充実を図っている。

- ・学生・教職員と地域の教育関係者等を対象に、新型コロナウイルスの大学拠点接種を3回（計5,071件接種）行ったほか、大学体育館を新型コロナウイルスワクチン広域接種会場として県に貸し出した。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学生窓口の一本化を図るため、就職・キャリア支援を担うキャリアオフィスを、奨学金等学生支援を担う部署と同じ場所に移設したほか、学生の集いの場所としてFPUホールを新たに設けた。
- ・遠隔授業の実施に際し、ITに関する学生及び教職員からの相談対応等の業務委託を継続し、事務の効率化を図っている。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究助成事業に関する研修会を開催するだけでなく、当該研修会を録画し、教員がいつでも確認できるようにするなどして、教育等に関する外部資金の獲得に努めており、獲得額も目標を上回っている。
- ・大学体育館を新型コロナウイルスワクチン広域接種会場として、2か月間有償で貸し出しを行い、大学施設を有効に活用した。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・「学生ファースト」の理念の下、IRサイクル総合会議、内部質保証・サイクル推進会議、IR推進室が中心となって、学生の意見を把握し、教育の改善に取り組んでいる。また、年に2回開催している大学改革セミナーにおいて、内部質保証におけるPDCAサイクルの向上について学内に周知を図っ

ている。

- ・ 高校訪問、入試説明会、出前講座の機会を通じて大学情報を広く発信しているとともに、学生や地域住民に向け、大学の新型コロナウイルス感染症の関連情報も発信するなど、学内情報の公開に努めている。